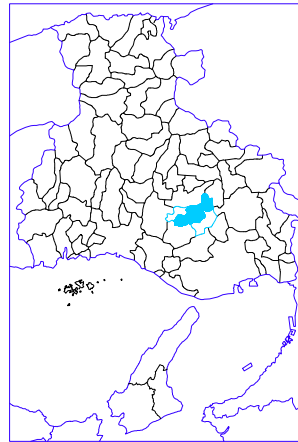


4 家原・堂ノ元遺跡

調査地 加東郡社町家原字中の堂
調査期間 1999年7月14日から
7月26日まで
原因 駐車場改良工事
原因者 公立社総合病院
調査協力 重機 - (有)岸本組土木興業
調査面積 176 m² (トレンチ8本)



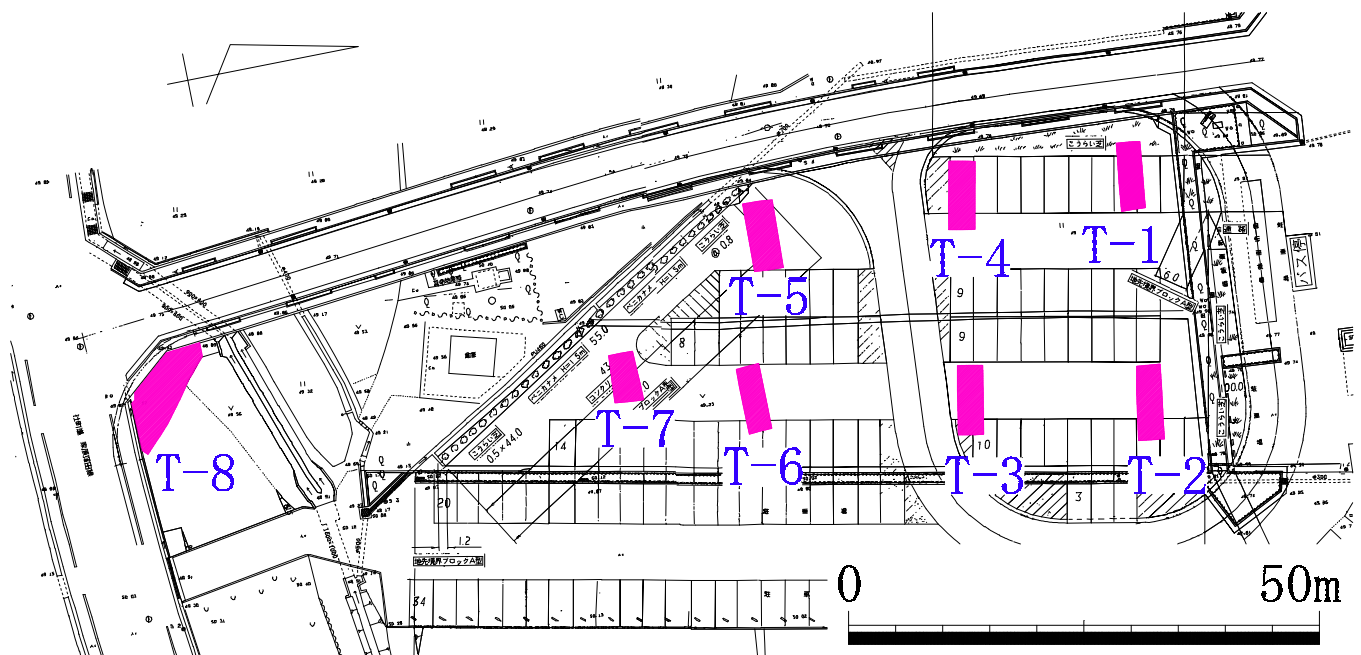
国土地理院 1 / 2 5 0 0 0 社使用

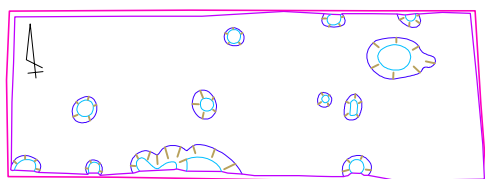
はじめに

周知の遺跡である家原・堂ノ元遺跡地内にある公立社総合病院において駐車場改良工事計画のある旨が事業者より提示された。現状は水田・畑地であるところから、耕作土を除去した後、盛土を行い駐車場整備を実施する計画であるところから、遺構が確認されても工事によって削平される可能性がないところから、トレンチによる確認調査を実施することに留めることにした。ただ、道路拡幅が伴う部分については、調査を実施することにした。

調査概要

トレンチは駐車場用地に7本(平均20 m²)設定し、道路拡幅部分(T-8)については全域(43 m²)の調査を実施した。

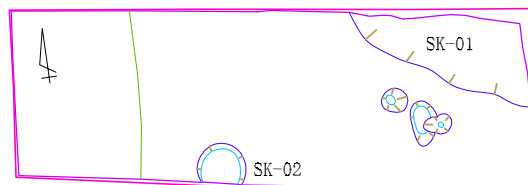




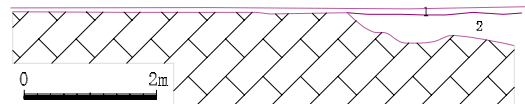
49.50m



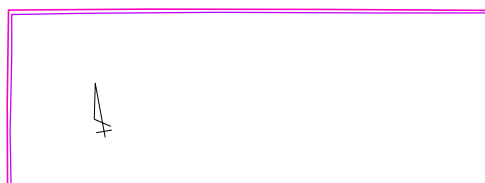
1 灰黄褐色土(10YR6/2) 2 黒褐色土(10YR3/2)



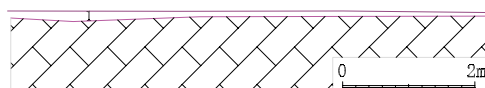
49.50m



1 灰黄褐色土(10YR6/2) 2 灰黄褐色礫層(10YR4/2)



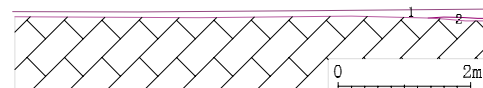
49.50m



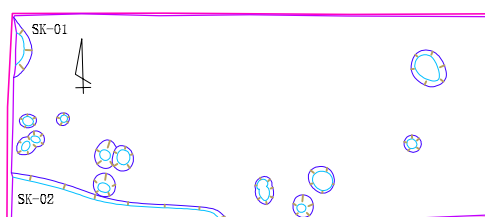
1 灰黄褐色土(10YR6/2)



49.50m



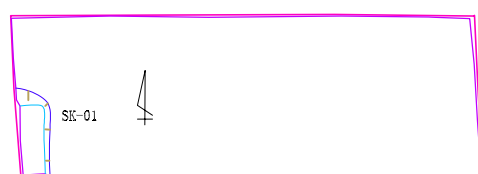
1 灰黄褐色土(10YR6/2) 2 黒褐色土(10YR3/2)



49.50m



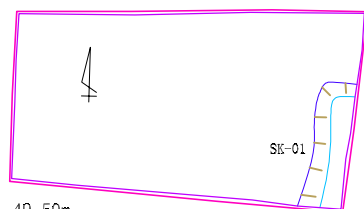
1 黄灰色土(2.5Y6/1)－耕作土 2 明黄褐色土(10YR6/6)－床土
3 灰黄褐色土(10YR6/2) 4 黒褐色土(10YR3/2)



49.50m



1 灰黄褐色土(10YR6/2)



49.50m



1 に近い黄褐色土(10YR5/3)

T-1	T-2
T-3	T-4
T-5	T-6
T-7	—

トレンチ遺構図

T - 1 径20cm～40cm大のピットが検出されており、掘立柱建物址が確認される可能性は強い。遺物として飛鳥時代頃の坏などが出土しており、これらのピットも同時代の可能性が考えられる。

T - 2 ベースを切り込んで不整形な土坑(SK - 01)が見られる。埋土は比較的細かい2～3cm大の礫層であり、埋土中には遺物はみられず、人為的なものであるかも現段階では判然とはしない。SK - 02は径75cmあまりのほぼ円形のプランを呈し、深さは6cmである。遺物は出土しておらず穿たれた時期は明らかではないが、埋土の状態からそう古い感じはしていない。

T - 3 遺構・遺物はみられない。

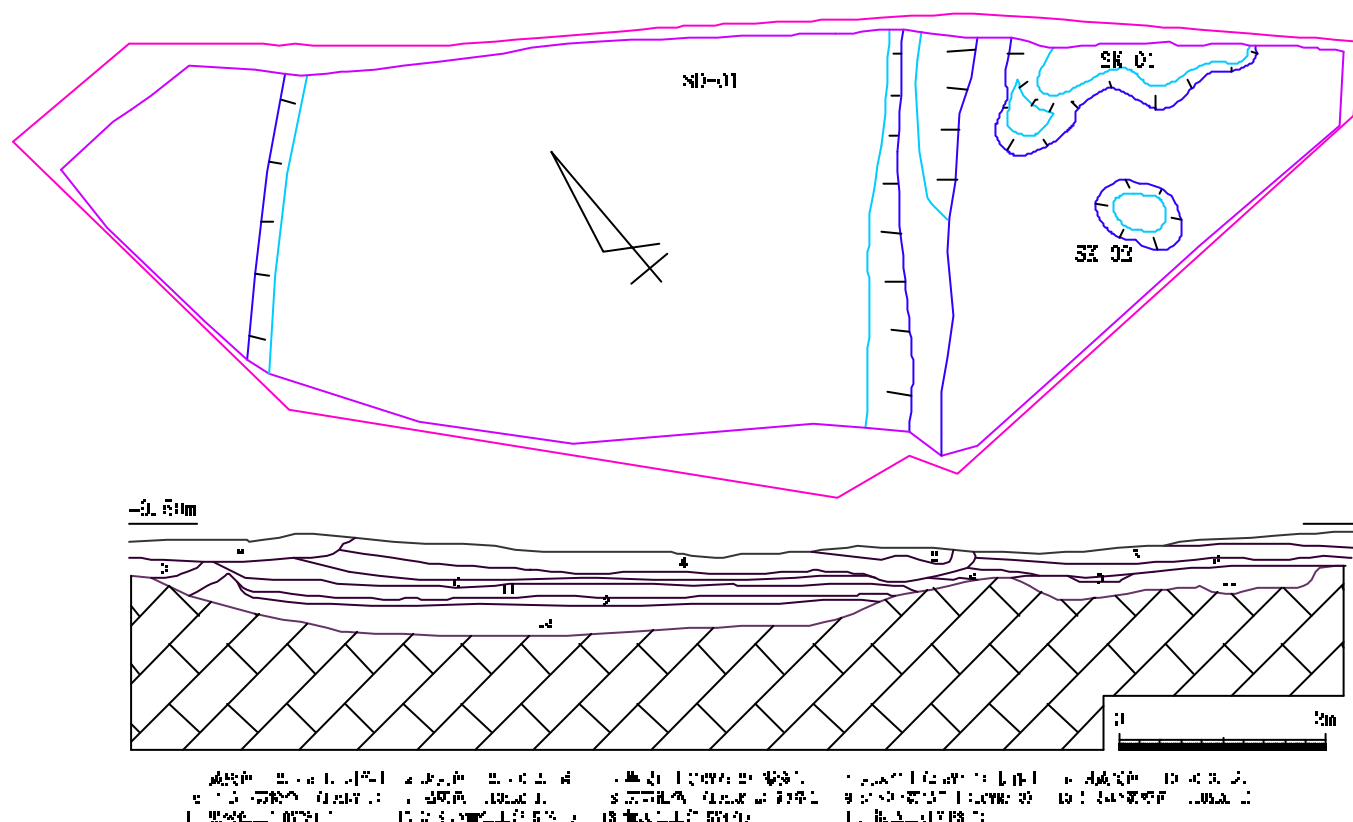
T - 4 東北端部で検出した土坑(SK - 01)は、プランは明らかではないが深さが15cm、埋土は黒褐色土の単層で、坏(2)長胴甕(3)などが出土し、7世紀後半の所産であるといえる。

T - 5 北西部に見られるSK - 01は楕円形状のプランを呈するのであろうか、深さは20cmが遺存し、埋土は黒褐色土である。出土した遺物は坏・甕と思われるが微細であり、図化等は出来なかったが、T - 4の落ち込みと同様の時期が考えられる。またSK - 02は深さ5cm、埋土はにぶい黄橙色土である。遺物は出土しておらず時期は限定しえない。そのほかピットが散在している。

T - 6 検出した土坑は深さ7cm、埋土は灰黄褐色土である。遺物は出土していない。

T - 7 不整形な土坑様の落ち込みがみられるが、遺構であるかどうかは判断し難い。

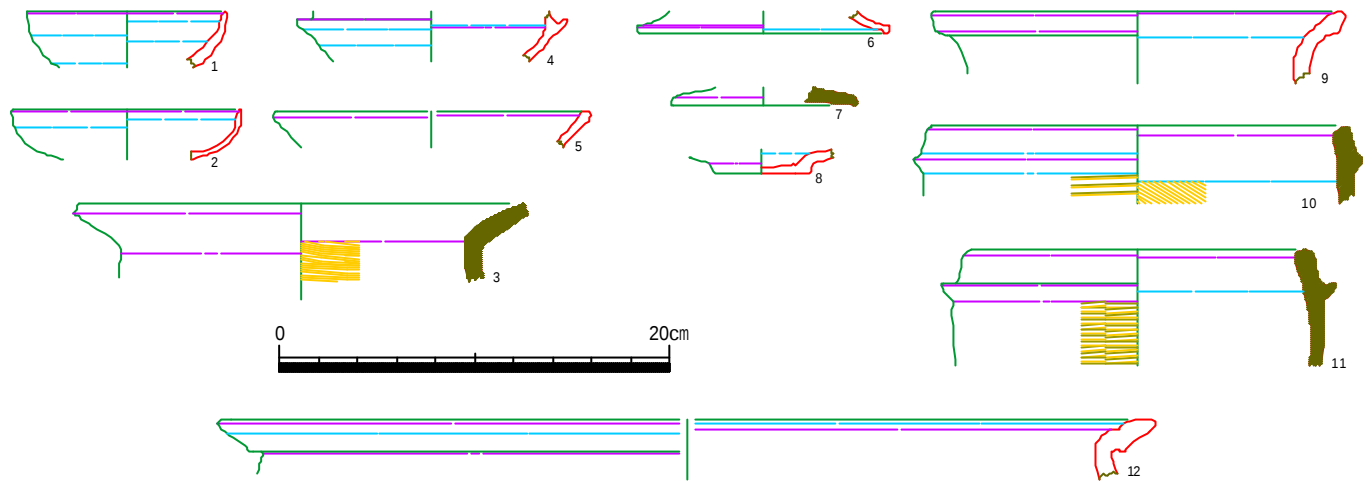
T - 8 不整形な土坑(SK - 01・SK - 02)及び幅6.5m、深さ約30cmの溝(SD - 01)が一条見られる。この溝の黄灰色土からは室町時代の土鍋、土釜(10・11)、皿、丹波焼甕(12)など



が出土している。黒褐色土が埋め戻されこの溝の機能は停止する。SK - 01は不整形なプランを呈し、黒褐色土の埋土がみられるが、遺物は出土していない。

遺物概要

出土遺物は、トレンチ調査ということからコンテナケ - スに 1 箱分である。図化するものはすべて提示している。



1(T-1) 2・3(T-3 SK-01) 4・5(T-3) 6(T-5) 7(T-6) 8(T-7) 9~12(T-8 SD-01)



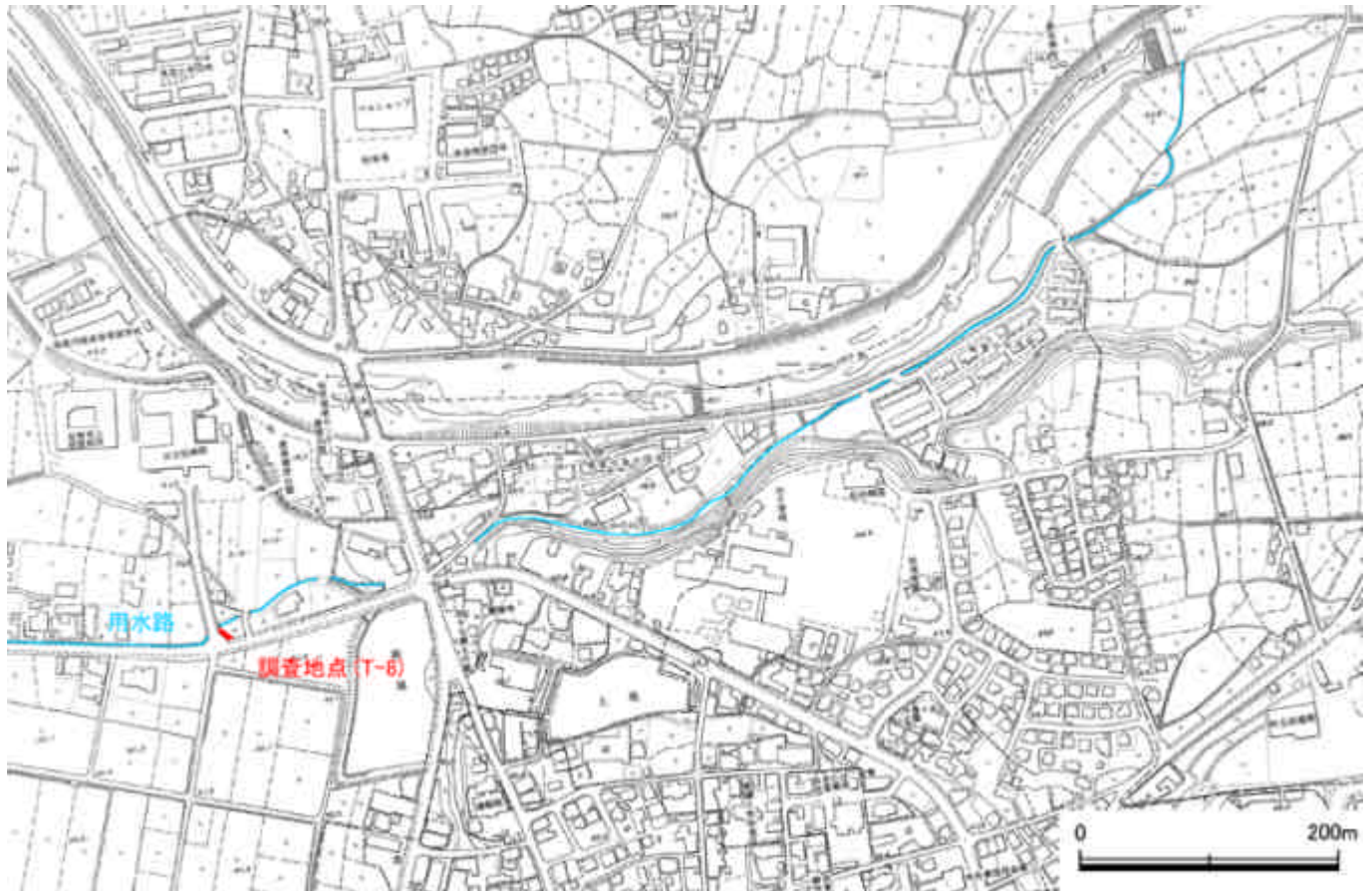
1・2 は 7 世紀後半の坏身、3 も同時期の甕である。4 は 7 世紀初頭頃の坏身、5 は平安時代後半以降の坏(山茶碗)、6 は高坏の脚端部で 7 世紀代の所産であろうか。7 は端部をほぼ水平に張りだした高坏で、内面には八ケ目が看取されるところから、5 世紀～6 世紀初頭の所産であろう。8 は当地域で一般的にみられる 12 世紀代の坏(山茶碗)である。9 は甕、10・11 は土釜で、11 は貼り付けられた鍔が明瞭ではなく、11 は

比較的是っきりしている。12 は稻荷山窯址群で焼かれたであろう丹波焼の甕である。10～12 は 15 世紀後半頃の所産と考えている。

まとめ

今回の調査では古墳時代後期から室町時代に至る遺構が確認され、従来想定していたよりも遺跡の範囲がより東に広がることが明らかになったことが成果である。

また、千鳥川に堰を設け、段丘崖下を流れるかたちで家原地区への用水を導いている現在の水路に接する状態で、T - 8 にみられるSD - 01が確認されているところから、この用水路が数百年間ほとんどその位置を変えない状態で用水維持されてきたことを示しているものと理解できよう。



現在の用水路

出土遺物観察一覧表

No	調査区	遺構名	口径	器高	底径	焼成	外面色調	色名	内面色調	色名	砂粒径	砂粒数	調整	種別	器種	備考	残存 (%)
1	T-1	精査	10	<u>2.8</u>		良	2.5Y8/1	灰白色	N7	灰白色	0.2	1	ヨコナデ	須恵器	坏		20
2	T-4	SK-01	11.6	<u>2.6</u>		良好	N6	灰色	N6	灰色	0.1	1	ヨコナデ	須恵器	坏		15
3	T-4	SK-01	22.8	<u>4.8</u>		不良	10YR8/1	灰白色	10YR8/3	浅黄橙色	0.2	7	内面 - ハケ目	土師器	甕		10
4	T-4	精査		<u>2.5</u>		良好	2.5Y7/1	灰白色	2.5Y7/1	灰白色	0.2	5	ヨコナデ	須恵器	坏	口縁端部欠、受け部径13.8cm	15
5	T-4	精査	<u>15.8</u>	<u>1.9</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.1	3	ヨコナデ	須恵器	椀		10
6	T-5	精査		<u>1.2</u>	12.6	良好	N6	灰色	N7	灰白色	0.1	2		須恵器	高坏	外面自然釉	15
7	T-6	精査		<u>0.9</u>	9.4	不良	5YR7/4	にぶい橙色	5YR7/4	にぶい橙色	0.2	6	内面 - ハケ目	土師器	高坏	脚端部	20
8	T-7	精査		<u>1.2</u>	5	良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.1	4	底部回転系切り	須恵器	椀		25
9	T-8	SD-01	20.8	<u>3.6</u>		良好	N7	灰白色	N6	灰色	0.2	5		須恵器	甕	3mm程度の石含む	20
10	T-8	SD-01	21.2	<u>3.9</u>		不良	10YR8/4	浅黄橙色	10YR8/4	浅黄橙色	0.2	7	外面 - 平行タタキ(3/1cm) 内面 - ハケ目	土師器	土釜		10
11	T-8	SD-01	17.2	<u>5.9</u>		良	7.5YR5/2	灰褐色	7.5YR5/8	明褐色	0.2	4	外面 - 鏝貼り付け→ 平行タタキ ヨコナデ 内面 - ナデ	陶器	土釜	4mm程度の石を含む 土師器と陶器の中間的	20
12	T-8	SD-01	<u>46.5</u>	<u>3.1</u>		良好	2.5YR4/2	灰赤色	2.5YR4/3	にぶい赤褐色	0.2	5		陶器	甕	丹波焼	5



帳票形式でリンクしています。 クリックしてください。

単位 砂粒径・・・・・・(cm)
砂粒数・・・・・・(/ c m³)
口径・器高のアンダ - ラインは現存値(cm)

家原・堂ノ元遺跡



調査前の景



調査前の景



T-1(西より)



T-1(東より)



T-2(西より)



T-2(東より)



T-2 SK-01(南より)



T-2 SK-02(東より)

家原・堂ノ元遺跡



家原・堂ノ元遺跡



T-6 (南より)



T-7



T-8 (北より)

家原・堂ノ元遺跡



T-8 (南より)



SK-01 (西より)



SK-02 (北より)



T-8断面 (合成)